

# 1. 評価結果概要表

作成日 平成19年8月24日

## 【評価実施概要】

事業所番号	0171400682		
法人名	医療法人社団 向仁会		
事業所名	グループホーム よろこびの家		
所在地	北海道函館市栄町16番16号		
	(電話) 0138-23-2777		
評価機関名	タンジント株式会社		
所在地	北海道旭川市緑が丘東1条3丁目1-6 旭川リサーチセンター内		
訪問調査日	平成19年8月23日	評価確定日	平成19年8月29日

## 【情報提供票より】(平成19年7月1日事業所記入)

### (1) 組織概要

開設年月日	昭和(平成)13年9月1日		
ユニット数	5ユニット	利用定員数計	45人
職員数	45人	常勤	41人, 非常勤 4人, 常勤換算 40.7人

### (2) 建物概要

建物構造	鉄筋コンクリート 造り		
	5階建ての 1~5階部分		

### (3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	27,400円	その他の経費(月額)	8,000円
敷金	有( ) 無( )		
保証金の有無(入居一時金含む)	有( ) 無( )	有りの場合償却の有無	有 / 無
食材料費	朝食	350円	昼食 400円
	夕食	400円	おやつ 180円
または1日当たり 1,330円			

### (4) 利用者の概要(7月1日現在)

利用者人数	45名	男性	13名	女性	32名
要介護1	10名	要介護2	8名		
要介護3	13名	要介護4	12名		
要介護5	1名	要支援2	1名		
年齢	平均 82.1歳	最低	66歳	最高	100歳

### (5) 協力医療機関

協力医療機関名	函館ベイサイド病院・函館協会病院・函館中央病院 さこ歯科・藤岡眼科
---------	--------------------------------------

## 【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

母体医療法人を中核とした総合福祉施設の中で、地域に密着した活動が永い5ユニットあるグループホームである。函館山を望む海岸線に位置し、夜には漁火が見えるなど風光明媚な環境と立地条件に恵まれ、建物はRC構造で消防設備やスプリンクラーが設置され安全に配慮されている。また、利用者・家族アンケートを独自に実施して改善点を見出したり、内部・外部の研修を奨励して報告会でその共有を図るなどケアサービスの質の向上に事業者・管理者・職員が一丸となって取り組んでいる姿が伺えた。共用空間や個々の居室は広いスペースが確保され、利用者の穏やかで明るく落ち着いた様子がケアサービスの充実ぶりを物語っていた。

## 【重点項目への取組状況】

重点項目	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4)
	前回外部評価では、緊急時の対応について改善点が見出されていましたが、防火管理責任者を2名配置して消防避難訓練や救急救命訓練を定期的に行っています。また、設備の点検も実施され安全に配慮された取り組みの実施が確認されました。
重点項目	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	自己評価に取り組む意義の理解やホーム独自の利用者・家族アンケートの実施で、ケアサービスの質の向上に対する具体的な改善の取り組みが確認できました。また、外部評価の結果についても運営推進会議で報告され改善の機会として取り組まれています。
重点項目	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4,5,6)
	運営推進会議は、評価日現在6回実施されています。最新の主な議題は介護技術について(具体的事例) 包括支援センターよりの説明 利用者「預かり金」について 家族からのご意見について(改善策について) 次回開催の要望や取り組みについて
重点項目	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7,8)
	「よろこび便り 栄」を定期的に発行して利用者の日常の暮らしぶりやホーム行事参加の様子や行事などの案内を伝えたり、アンケートの実施で苦情・意見や不安などを早期に把握して改善策を講じ運営に反映されています。今後は、さらにそれらを活用して認知症に対する理解や広報に取り組む計画がされています。
重点項目	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	町内会の餅つきやお祭りなどのイベントや行事に参加したり、小学生や高校生の体験学習の積極的な受け入れなど日常生活を通じて地域との連携が行われ認知症に対する理解や広報に取り組んでいます。また、運営推進会議などを通じて行政、包括支援センター、地域との連携が密に行われていることが確認できました。

2. 評価結果（詳細）

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>. 理念に基づく運営</b>					
<b>1. 理念と共有</b>					
1	1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	全ての職員の意見を取り入れた運営理念のもとに、日常の業務の中で「利用者が地域の中でその人らしく暮らし続ける」ことを職員間で共有されている。		
2	2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	管理者、職員は理念の重要性を理解し、理念の実践に向けて取り組んでいる。		理念実現に向けて職員一人ひとりが具体的な個々の目標を持っている。また、その達成度についても今後、管理者と話し合わせフォローアップされる計画がある。まさにP(計画)-D(実行)-C(検証)-A(改善)のサイクルが機能する仕組みが整備されつつある。
<b>2. 地域との支えあい</b>					
3	5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	母体医療法人を中核として、総合福祉施設の中で家族や地域の信頼も厚い。また、町内会のイベントや地域の行事に参加したり認知症に対する理解や広報の為に地元の人々との交流に努めている。		
<b>3. 理念を実践するための制度の理解と活用</b>					
4	7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	管理者、職員は自己評価及び外部評価を実施する意義を良く理解しており、日々の業務の中で活かす取り組みがされている。また、自己評価や前回の外部評価結果についても運営推進会議でも報告され、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる。		利用者・家族アンケートを実施して、日々の業務の中で具体的改善に取り組んでいる活動は、特筆すべき点である。今後、ますます地域を代表するグループホームとして活躍が期待されている。

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5	8	<p>運営推進会議を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	<p>運営推進会議については評価日現在6回開催されている。委員の中で、特に行政・包括支援センターとの連携が確認されたことは特筆すべき点として挙げられる。</p>		
6	9	<p>市町村との連携</p> <p>事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会を作り、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる</p>	<p>事業所は市との連携の重要性を認識して日々ケアサービスの質の向上に取り組んでいる。今後、ますますの連携強化の取り組みが期待できる。</p>		
<p><b>4. 理念を実践するための体制</b></p>					
7	14	<p>家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p>	<p>「よろこび便り 栄」などで利用者の日常の暮らしぶりや健康状態などそれぞれの家族に情報提供して信頼関係の構築に努力している。また、状態変化については都度電話連絡などで詳細に報告している。</p>		
8	15	<p>運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>独自の利用者・家族アンケートの実施や自己・外部評価の結果、運営推進会議の内容など家族に報告したり、来訪時には気軽に話せる雰囲気づくりや苦情相談窓口を明確にして気軽に意見や苦情・相談ができる環境整備に心掛けそれらを運営に反映させている。</p>		
9	18	<p>職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	<p>運営者・管理者は職員の異動などで利用者に影響を与えないように配慮する取り組みをしている。</p>		<p>今後は、さらに家族に職員の異動等の情報を伝える仕組みが検討されている。(例えば「よろこび便り 栄」での職員の紹介、共用空間で職員の紹介を掲示するなど)</p>

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>5. 人材の育成と支援</b>					
10	19	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	運営者は、内部・外部研修参加を積極的に奨励して参加者の報告会でフォローアップされたり、送りなど職場内研修やOJTの実施がされ職員を育てる取り組みがされている。		
11	20	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワーク作りや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	実践者研修、小学生・高校生の体験学習の受け入れ、同一法人グループの他施設や包括支援センターとの交流など開かれたグループホームである。		今後は、他地域や他同業者との相互訪問などを通じて職員のスキルアップも検討されている。
<b>.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
<b>1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応</b>					
12	26	馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	地域に根ざした母体医療法人の中のグループホームであり、利用者及び家族の信頼は厚い。また、入居前には、利用者・家族の見学などで不安を解消する取り組みや、場の雰囲気に馴染めるよう相談しながら工夫している。		
<b>2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援</b>					
13	27	本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員も利用者と一緒に食事の準備をしたり、楽しんで食事を一緒に摂ったり、外食や地域の銭湯に行ったり、本人の気持ちになった支えあう関係を築く取り組みが伺える。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
<b>1. 一人ひとりの把握</b>					
14	33	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	フェイスシートで一人ひとりの思いを職員間で共有して、散歩や買い物、外食など積極的に外出の機会を多く作ったり習字・将棋などの趣味への支援や食事の準備、食の嗜好の把握など本人の希望や意向を尊重した取り組みがされている。		今後は、認知症ケアで有効とされているセンター方式の採用も検討されているので、さらなる希望や意向を尊重した取り組みが期待されます。
<b>2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し</b>					
15	36	チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、介護支援専門員の適切な監理のもとに、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	介護計画は、介護支援専門員の適切な監理の元に作成されており、利用者、家族の希望や医師からの助言・情報や職員からの意見を取り入れ具体的な介護計画となっている。		水分・食事の摂取量、バイタル、排泄などの具体的介護記録は、電子化され職員で共有されシステム化されている。他にあまり例を見ない取り組みであり、質の高さが伺えた。
16	37	現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、介護支援専門員の適切な監理のもとに、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護計画書に記載している個別の期間を目安に評価を行い、3ヶ月に一度計画的に見直しが行われている。また、利用者・家族の要望や状態変化に応じて期間終了前であっても都度、現状に即した介護計画の見直しが行われている。		
<b>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</b>					
17	39	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	本人や家族の状況に応じて、通院の支援や要望のある場合には散歩や買い物など柔軟に支援を行っている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働</b>					
18	43	かかりつけ医の受診支援 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている。	母体医療法人の医師や看護師、利用者それぞれの主治医との連携で気軽に相談できる医師・歯科医師が確保されている。また、利用者、家族の希望や要望に応じて状態変化などについても往診など適切な医療が受けられるよう支援されている。		
19	47	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	母体医療機関と連携して利用者・家族とも段階的に繰り返し相談し合いながら慎重に検討対応するよう職員間で共有される取り組みがされている。		
<b>. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
<b>1. その人らしい暮らしの支援</b>					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	記録等の個人情報の扱いについては、個人情報保護法に対応した配慮がされた取り組みが行われている。また、利用者一人ひとりの尊厳やプライバシーを尊重して声かけなど支援するよう取り組まれている。		
21	52	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者一人ひとりの思いを尊重して散歩や買い物や食事の準備、野外でのバーベキュー、寿司などの外食、銭湯での入浴など本人の希望やペースに沿って支援している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	職員と利用者が本人の希望や力量に応じて一緒になって楽しんで食事の準備をしている。食事中は、和やかな雰囲気を出している。		
23	57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めず、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴時間帯は、利用者の希望に応じて対応している。また、ゆっくりとくつろいで入浴が楽しめるように支援されている。		地域の馴染みの銭湯での入浴も支援され、一人ひとりの思いや意向が大切にされている。
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	フェイスシートで利用者一人ひとりの生活歴が把握され、食事の準備、寿司などの外食や買い物、心身のリフレッシュや気分転換のためのドライブなど外出の機会も多くつくられている。		
25	61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさず、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	職員・家族の参加する温泉ツアーや大沼公園の散策、買い物、散歩、野外でのバーベキューなど気分転換や心身のリフレッシュができるように支援されている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	身体拘束廃止委員会が設立され、玄関は開放され鍵をかけないケアに取り組んでいる。利用者が外出する時は、職員がさりげなく目配せされ安全面で配慮されている。		ヒヤリ・ハット、インシデント・アクシデントの取り組みが行われ、事故の未然防止と改善策がフォローアップされている。

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
27	71	<p>災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている</p>	<p>防火管理者が配置され、緊急時に全ての職員が速やかに対応ができるように利用者と共に実技を伴う火災避難訓練が年2回実施されています。また、ホットライン・消火設備についても点検が実施され対策されている。</p>		<p>建物は、RC構造の5階建てでスプリンクラーも設置され、ハード面での安全対策は万全である。また、ソフト面での充実も検討されている。</p>
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	<p>栄養摂取や水分確保の支援</p> <p>食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている</p>	<p>具体的な水分摂取量や食事摂取量が主食・副食毎に記録され、栄養バランスやカロリーについてもおおよそ把握され支援されている。</p>		<p>具体的なカロリー摂取量については、母体法人や市の栄養士に確認する計画がされている。</p>
<b>2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり</b>					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	<p>居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>広い廊下や共用空間には椅子やテーブルが配置され一人になったり利用者同士談笑できるスペースが確保されてる。また、函館山や漁火、花火などの眺望が素晴らしく季節感を感じられたり気分転換ができるように工夫がされている。</p>		
30	83	<p>居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>居室には、冷蔵庫やソファなどの使い慣れた家具などが持ち込まれ安心して過ごせる場となっている。また、家族の写真など飾られ利用者一人ひとりの思いが伝わる空間作りとなっている。</p>		

 は、重点項目。

WAMNETに公開する際には、本様式のほか、事業所から提出された自己評価票（様式1）を添付すること。